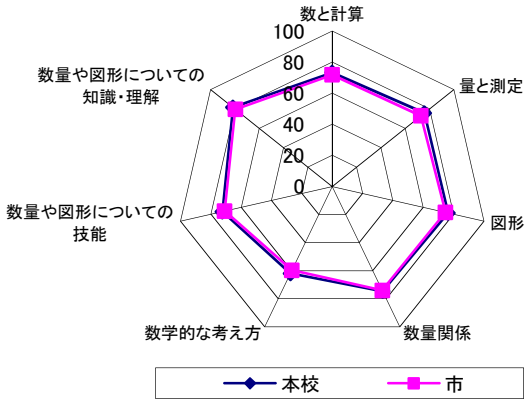
宇都宮市立豊郷中央小学校 第３学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	73.2	71.8
	量と測定	75.8	72.8
	図形	76.3	74.7
	数量関係	74.6	74.1
観点別	数学的な考え方	62.0	59.7
	数量や図形についての技能	72.4	70.9
	数量や図形についての知識・理解	81.7	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「4けた＋4ケタ＝4ケタ（繰り上がり3回）の計算ができる」や「あまりなしのわり算の計算ができる」は，高い正答率がでている。しかし，「2ケタ×1ケタ＝3ケタの計算ができる」や「400×7の計算の仕方を説明することができる」において，市の平均よりも低い結果となっている。	○かけ算のやり方を確認し，計算問題を繰り返して指導し定着を図る。また計算の意味を理解できるように，自分の言葉で説明できるように支援する。
量と測定	○全体的に正答率が高かった。特に「2つの時間を比較して，その間の時間を求めることができる」や「かばんの重さと全体の重さから，中身の重さを求めることができる」などが高い正答率がでている。しかし「逆思考で，何時何分発の電車に乗ったかを求めることができる」は，市の平均よりも低い結果となっている。	○逆思考の問題に戸惑いが見られる。問題の場面を正しく読み取り，条件を満たして抜けや落ちがないように，整理しながら解決していく意識を高める必要がある。
図形	○2年生の学習内容であるが，「直方体の長さの等しい辺の数を理解している」「直方体の作るときに必要な面の形と数を理解している」は，共に市の平均よりも高い結果になっている。	○前学年の内容であるが，さらに定着していけるように繰り返し指導する。
数量関係	○「□を使った乗法の式にあった文章問題を選ぶことができる」は高い正答率がでているが，「□を使って減法の式に表わすことができる」や「棒グラフから人数を読み取ることができる」は，市の平均よりも低い結果となっている。	○文章から□の意味を考えさせ，図式化したものから□を使った式を作れるように支援する。また棒グラフは，1目盛りの大きさがどれくらいなのかをいつも意識させ，読み取りが定着できるように支援する。